

黙示録21章：新しいエルサレム

1-8節：新しい都

「新しい天と新しい地」：これは今ある物質によって出来た天地ではない。全く新しいものである。

イザヤ書 65 章 17 節「わたしは新しい天と新しい地を創造する。」 → (אָרְצָא בָרָא)

= 無から有を創造する。

(אָשַׁב אֲשַׁר) = 組み立てる

「そのようにして、神の日の来るのを待ち望み、その日の来るのを早めなければなりません。その日が来れば、そのために、天は燃えてくずれ、天の万象は焼け溶けてしまいます。しかし、私たちは、神の約束に従って、正義の住む新しい天と新しい地を待ち望んでいます。(2ペテロ 3:12-13)」

「夫のために飾られた花嫁のように」：17章では大きな都バビロンが、不品行を行なう淫婦として出てきた。→ 私たちは花嫁のように、神のみを、主のみを愛して生きているか？

「天から」：地上のものではなく神から与えられる、全く新しい性質のもの。

「人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。(ヨハネ 3:3)」

→ この「新しく」は「上から」と訳すことができる。

「神の幕屋が人とともにある」：これが、神が人に持っておられる究極の目的。一つになること。

「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。(ヨハネ 1:14)」

→ この「住まわれた」は「幕屋を張られた」と訳すことができる。

「目の涙をすっかりぬぐい取ってください」：主は「最後の敵(1コリント 15:26)」である死を滅ぼされる。死によってもたらされるあらゆる苦しみ、悲しみ、叫びを取り除いてくださる。

→ 人間にとって不条理なのは「死ぬとわかっていて、生きること」。イエス様は、ラザロの死を悲しんでいる人々の姿を見て、泣き、憤られたが(ヨハネ 11:35)、人々に悲しみをもたらす死に対して憤っておられた。

「すべてを新しくする」：イエス様を信じて新しく生まれる時、この希望をもって生まれる。

「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。(2コリント 5:17)」

「事は成就した」：全て完成した。主は十字架の上でも死なれる前に同じことを言われた。

「アルファでありオメガである」：ギリシヤ語の最初と最後の文字

創世記(最初)から黙示録(最後)まで全て支配しておられる。

「いのちの泉」: 誰も神を求めて渴いている。それを多くの人が、物質的なもので満たそうと労苦するが満たされない。けれども、イエス・キリストを信じて、主として受け入れれば、ただで命が得られる。

「火と硫黄の燃える池」: 人間には二つの道しかない。「永遠の命」か「永遠の死」のいずれかである。

9-27節: 聖なる都

「神の栄光」: 宝石のような輝きはみな、神の栄光の現われ。

「透き通った碧玉」: 他にも「混じりけのないガラスに似た純金(18節)」という表現がある。

= 全く汚れのない、聖い状態を表している。

「イスラエルの子らの十二の門」: 新しいエルサレムには、あらゆる時代の聖徒たちがいる。旧約の聖徒たちもいる。(民数記2章によると、イスラエルの宿営も幕屋を中心にして、東西南北に、それぞれ三部族が位置した。)

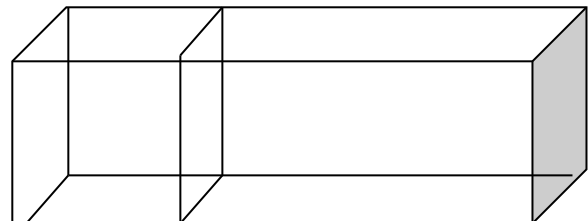
「小羊の十二使徒」: 教会を表している。教会は使徒の土台の上に建てられた(エペソ 2:20)。

「1万2千スタディオン」: 1スタディオンが185メートル。したがって、2220キロメートル。

「長さも幅も高さも同じである」: つまり立方体。

至聖所が立方体であった。そこに主が臨在された。

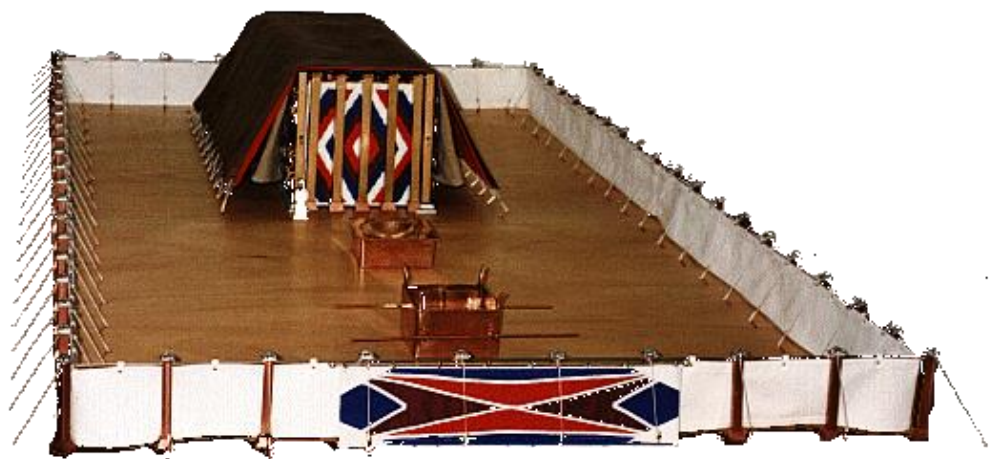
→ 都は神ご自身と一体になっている姿。



聖所



幕屋(성막)



「土台石はあらゆる宝石」： 大祭司の胸当ての宝石も十二の石がはめ込まれていた(出エジプト 28:17-20)。

「一つの真珠からできていた」： 地上で最も貴いものも、新しいエルサレムでは石ころにも及ばない！
「彼(モーセ)は、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる大きな富と思いました。彼は報いとして与えられるものから目を離さなかったのです。(ヘブル 11:26)」
「また、朽ちることも汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これはあなたがたのために、天にたくわえられているのです。(1ペテロ 1:4)」

「神殿を見なかった」： 神ご自身の中にいる！
「小羊が都のあかり」： 主の栄光の中にいる！
「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わたしも彼のうちにとどまります。(ヨハネ 6:56)」

「諸国の民が」： どんな民族の人にも開かれている！

「門は閉じることはない」： 都城は夜になると安全のために閉めるが、もはや暗闇の力はない。

「小羊のいのちの書に名が書いてある者だけ」： イエスの御名を信じて、永遠のいのちを得ている者のみが入ることができる。

22章1-5節 いのちの水の川

天のエルサレムの特徴 1)新しい 2)聖い 3)命がある

エデンの園と天のエルサレムの類似点

「川」： エデンの園にも川が流れていた(創 2:10-14)

でも、ここでは「命の水」。永遠の命をもたらす水が流れている。

「しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。(ヨハネ 4:14)」

「いのちの木」： エデンの園には「いのちの木」と「善悪の知識の木」が中央にあった。(創 2:9)

「呪われるものは何もない」： エデンの園では、アダムが罪を犯してから呪いが入った。(創 3:17)

「神の御顔を仰ぎ見る」： 人間はずっと神の姿を見ることはできなかった。主がモーセに言われた。

「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからであ

る。(出エジプト 33:20)」けれども、天のエルサレムで見ることができるようになる。

天のエルサレムは究極の癒し、また安息である。

「ですから、私たちは、この安息にはいるよう力を尽くして努め、あの不従順の例にならって落后する者が、ひとりもないようにしようではありませんか。(ヘブル4:11)」